

### 3 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 30 年 3 月 2 日（金）
- 2 開 催 場 所 新館 9 階 191 会議室
- 3 出席した委員 田淵教育長、吉田委員、坂元委員、廣岡委員
- 4 欠席した委員 森委員
- 5 出席した職員 高井教育総務部長、大西教育指導部長、  
井部教育指導部調整担当部長、  
平田教育総務部次長、  
小西教育総務部中学校給食準備担当参事、  
野村教育指導部スポーツ振興担当参事、  
石川教育指導部学校教育担当参事、  
吉田教育総務課長、竹中学務課長、  
山本学校教育課長、長瀬青少年育成課長、  
中田教育研究所長、沼田文化財調査研究センター所長、  
乾少年自然の家所長、竹内中央図書館長、  
山野教育総務課副課長
- 5 傍 聴 者 5 人
- 6 議 事 の 要 旨
  - 開 会 午後 4 時 00 分
  - 会議録署名委員指名のこと  
坂元委員に決定
  - 2 月定例教育委員会の会議録報告承認のこと  
(事務局から会議録朗読報告)  
承 認
  - 会議公開の可否決定のこと  
専決報告 2 「校長及び教頭の異動に係る内申について」は非公開とし、他は公開することに決定

(専決報告)

- 1 学校歯科医の委嘱について  
(教育総務部次長から説明)  
承 認

- 2 校長及び教頭の異動に係る内申について  
(議事を非公開とする)

(協議事項)

- 1 平成 29 年度 3 月補正予算に係る意見について  
(教育総務部次長から説明)  
原案可決

委 員 : 児童クラブ運営費補助金交付事業の増額であるが、市が国から受けている国庫補助金の増額分が、そのまま歳出として増額されているという認識でよいか。

事 務 局 : 当該事業は、市内で児童クラブを実施している民間事業者に対して、運営費の一部を補助金として交付するものであるが、補助金の負担割合が国、県及び市が 3 分の 1 ずつとなっているため、国庫補助基準額の見直しに伴い補助金額が増加すれば、その 3 分の 1 は市が直接負担することになる。

委 員 : 全体的に見ると減額補正が多いが、経費節減の努力が反映されている部分もあるのか。

事 務 局 : 当初予算の積算時には、ある程度の余白を見込んでいることや、競争性を有する入札という制度を利用していることから、例年ある程度の執行残が生じているのが現状である。

委 員 : 繰越明許費を措置している理由を改めて説明願いたい。

事 務 局 : トイレ改修工事に係る交付金が国の補正予算として追加されることが決定したため、市においても増額補正で対応したところであるが、業者選定や工事に必要な期間等を考慮すると今年度中の改修工事は実施が困難であることから、翌年度に繰り越すものである。

## 2 平成 30 年度当初予算に係る意見について

(教育総務部次長から説明)

原案可決

委 員 : 教育費としては年々増加傾向にあるように見受けられるが、一般会計全体に占める割合としてはどのように推移しているのか。

事 務 局 : 一般会計に占める割合においても年々増加傾向にある。

委 員 : いじめ問題対策に関連する事業という観点から整理すると、主な新規事業として「いじめ防止啓発事業」、「いじめ問題基本計画推進事業」、「スクールサポートチーム活用事業」の 3 事業、主な拡充事業として「学校生活適応推進事業」が挙げられているという認識でよいか。

事 務 局 : そのとおりである。

委 員 : 児童クラブについては「平成 31 年度からの新規開設等に向け 9 クラブの整備を行う」とあるが、それをもって全小学校区に必要数が整備されるということか。

事 務 局 : そのとおりである。一部の地域では現在も待機児童が発生している状況であるが、平成 31 年度には、高学年児童の受け入れや施設の条件適合を含め、児童クラブの環境整備が完了する予定である。

委 員 : 将来的な人口推計等を考慮しても、ここ数年は待機児童が出ないような受入環境が整備されるものと考えておけばよいか。

事 務 局 : 平成 28 年度に一部見直しを行った「加古川市子ども・子育て支援事業計画」に掲げる「量の見込み」が一つの基準となるが、そこに掲げる水準は確保することになる。

教 育 長 : 児童クラブに関して言えば、施設面や制度面などの枠組みが整備される一方で、そこで勤務する職員の「人材不足」が課題となってきた。全国的に児童クラブの拡充傾向が見られる中で、各自治体が競い合って職員の確保に取り組んでいるという背景がある。

委 員 : 継続事業として「歴史文化基本構想策定事業」が挙げられているが、平成 30 年度に完成するという認識でよいか。

事 務 局 : 当該策定事業は 3 か年にわたる事業であり、平成 31 年度に完成する予定となっている。

委 員 : 「特別支援教育児童生徒サポート事業」が拡充されているが、スクールアシスタントについて、現在の配置状況と次年度の増加人数を教えてください。

事 務 局 : 今年度は45名のスクールアシスタントを配置しているが、次年度には3名増員し、48名とする予定である。各校に必ず1名は配置しているが、できるだけ複数配置となるように増員するものである。

委 員 : 「スクールソーシャルワーカー活用事業」は昨年度から始まったものと認識しているが、今後の配置予定を教えてください。

事 務 局 : 今年度は5名のスクールソーシャルワーカーを配置しているが、次年度には3名増員し、8名とする予定である。平成31年度には4名増員し、全中学校区に1名ずつの配置にしたいと考えている。

委 員 : 「中学校雨水貯留施設整備事業」として6,300万円が計上されているが、「教育」というよりも「防災」の要素が強い事業だと認識している。教育費の中にこのような事業が含まれていることを新鮮に感じ、改めて教育費が担うべき範囲の大きさを痛感した。このような点も含めて効果的に住民に周知し、教育費の拡充が今後も続くよう、事務局の努力をお願いしたい。

事 務 局 : 「総合治水」の観点から進めている事業であるが、学校施設を整備するという点を考慮し、教育費として整理されている。なお、直近5年間で一般会計は68億円増加しているが、そのうち、教育費の増加が22億円も占めているという現状に対して、非常にありがたく感じている。

3 「教育アクションプラン 2018」の策定について  
(教育総務部次長から説明)  
原案可決

委 員 : 鑑として添付されている 1 枚ものの最重要取組事項も本編に包含されているという理解でよいのか。

事 務 局 : 本編としては次ページからになる。最重要事項に掲げている 13 の取組は、全て本編に記載している取組の再掲である。

委 員 : 最重要取組事項は本編の取組の再掲ということであるが、掲載順序が本編と整合していないこともあり、関連性がわかりにくいように思う。対応する本編のページ番号を追記するなど、今後工夫することを検討してもらいたい。

事 務 局 : 本編は、第 2 期「かこがわ教育ビジョン」に即した順序で整理しているが、最重要取組事項はそこから特に重視する取組を抜き出して 6 本の柱に分類し、再構成している。次年度の教育アクションプランを策定する際には、それらの関連性が一目で分かるような工夫を検討したい。

委 員 : 5 年計画である第 2 期「かこがわ教育ビジョン」の進捗率を把握する上で、1 年ごとの教育アクションプランの進捗管理は必須であると考えているが、どのように整理しているのか。

事 務 局 : 教育アクションプランの対象となる年度が終了したのち、1 年間を振り返って点検・評価し、報告書を作成している。当該報告書には各取組ごとの指標も掲載しており、一つ一つの取組を改めて振り返ることとしている。なお、点検・評価を行う際には、教育アクションプランに掲げる個々の取組を振り返るだけでなく、第 2 期「かこがわ教育ビジョン」に掲げる 15 の重点目標に対する達成度も自己評価している。

委 員 : 今年度で言えば、教育アクションプラン 2017 の点検・評価を行っていない状況の中で教育アクションプラン 2018 を策定しようとしている。点検・評価の際に把握した課題や方向性については、どのように教育アクションプランに反映されるのか。

事 務 局 : 現時点では教育アクションプラン 2016 の点検・評価が完了しているが、その際に把握した課題や方向性については、教育アクションプラン 2018 に反映している。

委 員 : 昨年度からの変更箇所を確認するためには、教育アクションプラン 2017 の項目と見比べる必要がある。委員の手持ち資料で構わないので、次年度から見え消し資料を添付してもらえるとありがたい。

教 育 長 : 本市の教育行政は、5 か年計画の第 2 期「かこがわ教育ビジョン」が基本となっており、その内容を踏まえて単年度ごとの実行計画として教育アクションプランを策定している。また、教育アクションプランの内容を効果的に周知するため、毎年見開きのダイジェスト版を作成して関係者へ配付している。ダイジェスト版はレイアウトの工夫や写真の活用により見やすいものになっている一方で、この教育アクションプランの本編は少し見づらいようにも感じる。内容的には充実してきていると思うが、今後は体裁や見やすさといった点にも配慮した作り方を心がけてもらいたい。

委 員 : 先ほど、第 2 期「かこがわ教育ビジョン」や教育アクションプランなど、教育行政に関する計画等の体系に係る説明があったが、本編の冒頭にその内容を盛り込んでどうか。教育委員会関係者にとっては大前提のことであっても、初めて見る方の中にはその体系を知らない方もおられると思う。

事 務 局 : 次回の教育アクションプランを策定する際には、体系説明も盛り込んでいきたいと考えている。

#### 4 「加古川市スポーツ推進計画」の策定について (教育指導部スポーツ振興担当参事から説明) 原案可決

教 育 長 : 短い時間の中でここまでの素案を練り上げていただいた加古川市スポーツ推進審議会の皆様や、少ない人員でそれをかたちにした事務局の職員には感謝申しあげたい。

委 員 : 40 ページに記載のある「スポーツ関係団体との連携・協働」について、少し掘り下げた説明をお願いしたい。

事 務 局 : 本市の主なスポーツ関係団体としては、加古川市スポーツ推進委員会、加古川市体育協会、NPO 法人加古川総合スポーツクラブの 3 つの団体がある。平成 25 年にこの 3 つの団体が協力し、「スポーツネットワーク委員会」が組織されたところであるが、「スポーツネットワーク委員会」を中心に、それぞれの団体の長所を生かしつつ、事務局や学校との連携を進める中で、当該計画の推進を図ろうとするものである。

- 委 員 : 3つの団体が協力して「スポーツネットワーク委員会」を立ち上げたということであるが、モデルとなった他市の事例等はあるのか。
- 事 務 局 : このように複数のスポーツ関係団体が一つの目的に向かって団結し、求心力を持って活動している状況は全国的にも珍しい事例だと認識している。
- 委 員 : 先ほど「スポーツネットワーク委員会」と学校の連携の話が出ていたが、学校教育ではどのような場面で連携が期待できるのか。
- 事 務 局 : 例えばスポーツテストの機会などが挙げられる。教員だけでは正確な測定が困難な種目において、スポーツ関係団体の方が測定業務を支援してくれている。また、今後言えば、体育科の教員の指導力向上や、部活動における外部技術指導者の派遣といった面で支援をお願いできるのでと考えている。また、学校教育以外の部分にはなるが、スポーツカーニバル等のイベントの開催を通じ、子どもたちがスポーツに触れることのできる機会を提供していただくなど、様々な場面でご支援をいただいている状況である。
- 委 員 : 子どもたちが優れたアスリートのパフォーマンスを直接目にする機会があれば、その競技の高みを感じることができ、更なる自己研鑽につながることも期待できる。
- 教 育 長 : 部活動については、そのあり方への関心が高まる中で、学校教育課が中心となり様々な議論を重ねてきたところであるが、これまでの議論を踏まえて更なる検討を進めていきたい。
- 委 員 : スポーツは、社会教育分野でも学校教育分野でも重要なものであり、またウェルネス推進課等の他部署にもまたがるものでもあるが、それらの垣根を越えて一致団結し、この計画に基づく効果的なスポーツ行政が推進されることを期待している。
- 委 員 : 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催に先立ち、本市においても事前合宿の誘致に力を注いできた経緯があるが、一つの歴史としてそのような活動を実施したことを記載しておく必要はないか。
- 事 務 局 : 第2節にこれまでの本市におけるスポーツ推進の取組を記載しているが、その部分に追記が可能かを検討したいと考える。

委 員 : 最近の小中学生は同年代の子ども同士で活動することが多く、学校・家庭以外で大人と接する機会が少ないように感じる。世代間交流の手段としてもスポーツは活用できると思うので、そのような観点も踏まえて様々な取組を進めていってもらいたい。

事 務 局 : 先日、NPO法人加古川総合スポーツクラブの理事長に、部活動とスポーツクラブの連携状況をお聞きする機会があった。スポーツクラブで活動していた児童が中学生になり、同種目の部活動で試合に出場することになれば、スポーツクラブ時代の指導者が応援に来ているとのことである。また、逆に中学生が過去に自分が所属していたスポーツクラブの練習に参加し、小学生とともに汗を流してくれるなど、相互の連携が生まれているようである。先ほどの委員の発言にもあった世代を超えた交流を生み出す素地ができつつあるように感じている。

5 加古川市スポーツ推進委員の委嘱について  
(教育指導部スポーツ振興担当参事から説明)  
原案可決

教 育 長 : 委員によって活動実績の多寡があると思うが、事務局としてはどのように考えているのか。

事 務 局 : 平日の活動が難しい委員もいれば、逆に土日の活動が難しい委員もいる。個人のライフスタイルに応じて活動可能な時間帯に差異があるので、それらを十分に把握した上で適切な役割分担を進めていきたい。

委 員 : 勤続年数がかなり長い委員も多い。非常にありがたいことである。

事 務 局 : 勤続年数に応じた表彰制度があり、東北播エリアでは6年、県では10年、国では30年が基準年数となっている。



## 6 平成 30 年度加古川市立学校教職員研究・研修計画について

(教育指導部学校教育担当参事から説明)

原案可決

委 員 : 先日、市内小学校の 3 年生が地域学習として鶴林寺に訪れてくれた。それに先だって担当の教員と当日の進め方について打合せの場を持ったが、学校側からは目的提示もなく、「どのように進んでいただけますか」と聞かれたため、逆に「どのように進めることを希望されますか」と問い返す場面があった。研修に関して言えば、目的を持って参加する方と、そうでない方とでは、研修を通じて得るものに差が出てくると思う。参加者がしっかりと目的を持って研修に参加できるような手法について、主催する事務局側にも検討してもらいたいと考える。

教 育 長 : この研究・研修計画は、年々その内容がブラッシュアップされ、非常に充実したものになってきているが、体裁については少し工夫できる余地があると思う。例えば鑑のページでは 1 本の柱の絵に「3 つの柱」という文言が書いてあるが、3 本の柱を配置してより明示的にすることも可能である。今後視覚的なリニューアルを期待したい。

委 員 : 研究員会の実践的な活動を含め、内容としては必要な項目が網羅されていると思うが、1 点確認させてもらいたい。「マネジメントを意識した研修の推進」の中で、危機管理や防災・安全面の研修についての記載があるが、具体的にはどのステージの研修で取り扱うこととしているのか。

事 務 局 : 年次の研修ではなく、校長研修や教頭研修、教務研修で取り扱っているが、毎年盛り込んでいるわけではなく、定期的なサイクルの中で題材としている。

委 員 : そのような状況がわかるような記述を追加することを今後検討してもらいたい。

## 7 加古川市指定有形文化財の指定について

(教育指導部調整担当部長から説明)

原案可決

委員：2点とも素晴らしい文化財だと思うが、これまで推薦対象に挙がらなかった理由や背景があれば教えてもらいたい。

事務局：1点目の天坊山古墳出土品一括は昭和43年の調査で発見されたものであるが、考古学上の様々な学説があり、今日に至っている。ただ、今年が調査50年目という節目の年であることや、当時の調査班のリーダーが先日お亡くなりになったことも勘案して、今回の推薦につながったものである。2点目の木造聖徳太子立像はこれまで秘仏として扱われており、文化財の指定になじまないものとされてきた経緯がある。

委員：今後、県の指定有形文化財の指定を受けるべく働きかけるようなことは考えているのか。

事務局：所有者はこれを契機に県への申請も視野に入れられているとのことである。また文化財審議委員会の委員からも、申請に値する貴重な文化財であるとの声をいただいている。

### ○ 次期定例教育委員会予定日のこと

4月5日(木)午後3時30分から開催することに決定

### ○ 教育長諸報告

#### (1) 教育行政視察について

平成30年2月14日(水)に、坂元委員、廣岡委員、事務局職員2名とともに岡山県総社市教育委員会への行政視察を行った。総社市では「だれもが行きたくなる学校づくり」をテーマに掲げ、不登校・問題行動の未然防止に向けた学級集団づくりを進めており、その実状と成果を学ばせていただいた。小学生の不登校に影響する就学前の家庭教育の重要性に関する示唆もあったが、家庭環境への干渉という困難性から対応に苦慮されており、教育と福祉の連携の重要性を再認識した。

## ○ 教育委員諸報告

〔廣岡委員から〕

### （１）教育行政視察について

いじめ対策関連事業の成果指標が単純な認知件数や不登校数だけに留まらず、非常に多彩な項目が掲げられていた。逆に成果指標を確立するために多彩な取組を推進されているようにも見受けられた。指導主事が非常に少ない体制の中で多忙を極めながらも、教育行政の柱としていじめ対策関連事業が着実に推進されていることを実感した。

〔坂元委員から〕

### （１）教育行政視察について

様々な取組の中に「地域とともに」というスタンスが垣間見えた。本市においても中学校区連携ユニット 12 による「ヨコ」の連携を推進しているところであり、方向性として大きく異なっていないことを実感した。

## ○ 教育総務部長諸報告

### （１）就学援助（入学準備金）の申請受付について

就学援助の申請受付を 1 月中旬から平成 30 年 2 月 15 日（木）まで行った。受付件数は、小学生 310 人、中学生 249 人、計 559 件であった。

委 員 ： 559 件の申請は全て認定されたのか。

事 務 局 ： 現在認定作業を進めているところであるが、受付の際には所得状況等の基本的な確認を行っているため、受理した分については概ね認定されるものと考えている。

以上、1 件について報告

○ 教育指導部長諸報告

- (1) 平成 29 年度（第 2 回）加古川市社会教育・福祉教育推進員全市研修会の開催について

平成 30 年 2 月 4 日（日）に、「平成 29 年度（第 2 回）加古川市社会教育・福祉教育推進員全市研修会」を開催した。

- (2) 「社会教育委員会議」の開催報告について

平成 30 年 2 月 23 日（金）に、第 6 回「社会教育委員会議」を開催した。

- (3) 加古川東市民病院跡地整備について

東加古川公民館等の移転先として整備内容を検討している加古川東市民病院跡地について、その事業概要を説明する。

委 員： 東加古川子育てプラザの中に、児童図書の設置コーナーを盛り込むことは検討できないか。

事 務 局： 関係部局との会議の中で提案してみたい。

委 員： 現行の東加古川子育てプラザのスペースはどのように活用されるのか。

事 務 局： 現行スペースは借用している状況であり、借用期間の満了とともに東加古川市民病院跡地に移設することとなる。

- (4) 第 10 回加古川教育フォーラムの開催報告について

平成 30 年 2 月 11 日（日）に開催した「第 10 回加古川教育フォーラム」について報告する。

- (5) 第 41 回全日本アンサンブルコンテスト出場激励会の開催について

中部中学校吹奏楽部が、関西アンサンブルコンテストにおいて金賞を受賞し、関西代表として全日本アンサンブルコンテストに出場する。また、激励会を平成 30 年 3 月 19 日（月）に開催する。

- (6) 平成 29 年度中・養護学校卒業式教育委員会出席予定者について

平成 29 年度中・養護学校卒業式教育委員会出席予定者が決定したので報告する。

以上、6 件について報告

○ 閉 会 午後 6 時 15 分